

2. 事業の目標・成果

1 公演数・観客数等定量的な成果について 各年度の実績及び次年度に向けての取組みについて記載。				
初年度における 5年後目標	(単位：)	H30	H31 (R1)	R2
「日本から発信する世界レベルのオペラ」創造を課題解決の鍵ととらえ、5年間に渡って国際化に向けてのプロジェクトを様々な仕掛けで行っていく。公演事業としては5つのスキームを企画し、国民に対して多彩なオペラの鑑賞機会を提供するとともに、公演実現に至る過程の様々な場面において、日本のオペラ認知度向上を図る。公演事業を行う中で、高いスキルを持ちながらも活躍の場が日本に限られていたスタッフや歌手といった人材の「輸出」、及び新たな資金調達取組を柱に事業を実施する。	単年度目標	東京二期会オペラ劇場『魔弾の射手』ハンブルク州立歌劇場との共同制作 4回公演	東京二期会オペラ劇場『蝶々夫人』ゼンパーオーバー・ドレスデン、デンマーク王立歌劇場、サンフランシスコ歌劇場との共同制作 5回公演	東京二期会オペラ劇場『ルル』
	実績	東京二期会オペラ劇場『魔弾の射手』ハンブルク州立歌劇場との共同制作 4回公演	東京二期会オペラ劇場『蝶々夫人』ゼンパーオーバー・ドレスデン、デンマーク王立歌劇場、サンフランシスコ歌劇場との共同制作 5回公演	東京二期会スペシャル・オペラ・ガラ・コンサート「希望よ、来たれ！」 1回実施
	各年度における実績を元に、次年度に向けての課題や取組み	H31年度に向けて… 初年度は巨匠演出家ペーター・コンヴィチュニーによる舞台で、宝塚歌劇団元トップスターが日本オリジナルとして出演する新たなコラボレーションで話題を呼んだ。来年度は当事業の目玉とも言える、日本から発信するオペラ『蝶々夫人』であり、よこすか芸術劇場公演も含め、ワールドプレミアにふさわしい5公演となるよう努める。	R2年度に向けて… カロリーネ・グルーバー演出『ルル』は、『蝶々夫人』同様に東京がワールドプレミアとなる公演であり、公演の内容充実はもちろん、共同制作先の決定に向け、交渉も進めていきたい。また、『蝶々夫人』演出、演出助手、衣裳コーディネーター、所作指導の計4名がドレスデン公演に向け招聘される予定もあり、「人材の輸出」第一弾としてヨーロッパプレミアを成功させたい。	R3年度以降に向けて… 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う措置から、『ルル』は延期を断念せざるを得ない状況であった。しかしながら自粛要請期間を経て初の東京文化会館公演を成功させることができ、感染対策のノウハウなども得ることにつながった。
	(単位：)	R3	R4	達成率
	単年度目標	東京二期会オペラ劇場『ファルスタッフ』テアトロ・レアル、モネ劇場、フランス国立ポルドー歌劇場との共同制作 4回公演	東京二期会オペラ劇場『パルジファル』フランス国立ラン歌劇場との共同制作 4回公演	100%
実績	東京二期会オペラ劇場『ファルスタッフ』テアトロ・レアル、モネ劇場、フランス国立ポルドー歌劇場との共同制作 3回公演 【令和2年度からの延期】東京二期会オペラ劇場『ルル』 3回公演	東京二期会オペラ劇場『パルジファル』フランス国立ラン歌劇場との共同制作 4回公演		
各年度における実績を元に、次年度に向けての課題や取組み	R4年度に向けて… 今年度は延期公演含め7公演を予定していたが、『ファルスタッフ』初日は陽性者が確認されたため、弊財団公演として初めて中止を断念せざるを得なかった。来年度もコロナ禍での公演が想定されるため、感染対策をより万全なものとし、5年間の集大成にふさわしい内容としていきたい。	R5年度以降に向けて… この5年間の公演事業はどれも内容の充実が見られたと認識しており、新たなアーティストや劇場との協働、そして「人材の輸出」が実現できた。今後も引き続き「日本から発信する世界レベルのオペラ」実現に向け、努めていきたい。		
2 <課題解決>における成果について 「我が国の文化芸術による国家ブランドの構築と経済的価値等の創出や国際発信力を高めるための新たな展開に関する取組」について、各年度において課題解決するための取組目標及び事業実施による成果・変化、次年度に向けての取組を記載。				
初年度における 5年後目標と現状		H30	H31 (R1)	R2
「日本から発信する世界レベルのオペラ」創造を課題解決の鍵ととらえ、5年間に渡って国際化に向けてのプロジェクトを様々な仕掛けで行っていく。公演事業としては5つのスキームを企画し、国民に対して多彩なオペラの鑑賞機会を提供するとともに、公演実現に至る過程の様々な場面において、日本のオペラ認知度向上を図る。公演事業を行う中で、高いスキルを持ちながらも活躍の場が日本に限られていたスタッフや歌手といった人材の「輸出」、及び新たな資金調達取組を柱に事業を実施する。	単年度目標	資金調達目標：協賛企業5社	東京公演、横須賀公演計5回公演で1万人の動員。 資金調達目標：協賛企業5社	資金調達目標：協賛企業6社
	実績	4社	来場者数：約7,200名 5社	4社
	各年度における実績を元に、次年度に向けての課題や取組み	H31年度に向けて… 平成31年度は宮本亜門演出『蝶々夫人』を欧米の有力歌劇場と共同制作するため、共同制作相手先国の企業からの協賛を、各国駐日大使館と連携して募る。この取組により、資金調達と相手先国での日本のオペラの知名度向上を目指す。	R2年度に向けて… 令和2年度には欧州プレミアとなるドレスデン公演『蝶々夫人』が予定されており、演出家の他演出助手、衣裳コーディネーター、所作指導のスタッフの「輸出」を見込んでいる。また、東京オリンピックに向けインバウンド需要を念頭に、外国人観光客の来日に向けた働きかけも行う。	R3年度に向けて… 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う公演延期があり、令和3年度は2つのプロダクションが予定される。そのため、より多くの協賛企業獲得が重要となるが、コロナ禍における働きかけでは苦戦が予想される。
	(単位：)	R3	R4	達成率
	単年度目標	1公演あたり学生席100枚販売 資金調達目標：協賛企業5社	資金調達目標：協賛企業6社	180%
実績	ファルスタッフ：146枚、ルル：233枚(各3公演) 5社	9社		
各年度における実績を元に、次年度に向けての課題や取組み	R4年度に向けて… 来年度は当事業アーティストインレジデンスとも言える演出家宮本亜門が初めて日本で披露するワーグナー作品ともなり、5年間の集大成として、協賛企業の拡大を目指す。	R5年度以降に向けて… 今年度公演事業『パルジファル』は過去最大の協賛企業数となり、目標は達成することができた。ただ、具体的な目標値は設定していないものの、観客数の確保には依然課題があり、次年度以降様々な公演を実施するにあたり、これまでとは異なる、厚いマーケティング戦略が必要になると考えている。	(達成率の根拠) 初年度は協賛企業4社から始まったが、令和4年度にはシーズン特別協賛企業4社を含む9社を達成することができた。民間企業による協賛金は、企業内でのオペラ公演の周知なども見られるため、新たな顧客獲得にもつながっている。今度も幅広い企業への声を続け、より多くの企業に弊財団オペラへの期待を持ってもらえるよう努めたい。	

3 戦略的芸術文化創造推進事業における課題解決への成果の他に、得られた成果や波及効果について			
(1) 成果内容		(2) 今後、成果を生かせる事業や取組	
この5年間でオペラ・ヨーロッパ、オペラベースに加入した。当初はこのことで、公演事業の共同制作先やレンタル先の確保が図られればという点を目的としていたが、そのための「マーケットプレイス」に出席したことにより、過去に共同制作や提携を行っていない歌劇場担当者ともコネクションができ、様々な情報交換が可能となっている。将来的なプロジェクト実現や、アジア地区の歌劇場との連携などが視野に入りつつあり、このことは当初企図していなかった成果のひとつと言えるかもしれない。		左記の通り、新たな協働としての将来的なプロジェクト実現や、アジア地区の歌劇場との連携など、新規の展開が可能となればと努めている。アジア地区はインバウンド需要なども大きく見込めるため、こういった層に対するオペラ分野のアピールを行いたいと考えているが、この場合に、アジア地区歌劇場とのつながりが有効に活用できるのではないかと認識している。	
4 新型コロナウイルス感染症による影響と取組について			
(1) 影響	(2) 中止・延期をせず、事業実施するための努力	(3) コロナ拡大の影響を通して得たもの、知見	(4) 今後、同様の感染症拡大が起こったことを見据えた取組
緊急事態宣言の発出により、ホールのキャパシティの制限や、公演会場はもちろん、リハーサル時にも感染拡大防止策を講じる必要などが生じた。また、舞台上でのソーシャルディスタンスが求められることは、オペラの演出上かなりの制約となり、演出プランの変更が非常に大きく求められた。新規外国人入国に係る水際対策も弊財団公演にとってはかなりの影響があった。観客に関しては、従来弊財団愛好層であった比較的高齢の聴衆が激減したと言わざるを得ない。	公演会場での感染対策も種々行い、できる限り最大の形で観客の安全確保の上、公演を実施した。舞台のほうでは、左記の通り、ソーシャルディスタンス保持などのための演出プランの変更について演出家やスタッフで何度も検討を重ね、舞台の実現に努めた。外国人入国に係る水際対策に関しては、2週間の待機期間確保などが求められたことから当初予定の指揮者のスケジュール確保が不可能となり、急遽代役を立てる措置を行い、指揮者変更による公演実施となった。演出家やプランナーの来日不可能に対しては、リハーサルを常にオンラインで確認させたり、劇場での準備にも全てリアルタイムでつないでやりとりするなどした。	新規外国人入国に係る措置によりスタッフが来日不可能になった際、左記のようにオンラインでつなぐ形で指導や打ち合わせを行い、この形で実現可能な点、これではやはり不十分な点というのがよく整理できた。	公演会場での感染対策などに関してはノウハウを得ることができたため、スタッフの動きなども含め、対応することができるのではないかと認識している。外国人スタッフとの打ち合わせなどに関しても、できる限りオンラインでの実施が可能とはなっているが、会場が変わることによる照明の調整など、どうしても現地でなければ実現不可能な箇所も多く、左記のような「可能な点、不可能な点」の整理は続けていきたい。
5 1～4以外に、貴団体において周知したいこと			
当事業5年間を通し、『蝶々夫人』をはじめとした日本初のコンテンツが実施できた。申請時にも記載した通り、これまで共同制作の際にも相手先歌劇場でのプレミアが多く、ワールドプレミアの持つ発信力は有せないことも多かったため、この事業を通じての世界へのアピールという点で非常に有意義であったと考えている。また、オペラ制作の際は数年先までの準備を行うことが多いことから、5年に渡り当事業が実施され、計画性高く企画できたことは最も大きな収穫と言っても過言ではないと認識している。また、公演事業にとどまらず、例えばオペラヨーロッパへの加入などもこの事業に盛り込む形にできたことも、これまでの補助金、助成金と異なる性格で、有効に利用できたと思うものである。		弊財団が当事業開始時から柱として掲げたい「人材の輸出」に関して、下記のような派遣実績があがっている。 『蝶々夫人』 ドレスデン公演 演出：宮本亞門 演出助手：島田彌六 所作指導：柏木銀次 衣裳コーディネーター：武田園子(遠隔) 蝶々夫人役：森谷真理 サンフランシスコ公演には宮本氏、島田氏が派遣予定であり、柏木、武田両氏は遠隔で参加予定。 『パルジファル』フランス公演 演出：宮本亞門 演出助手：三浦安浩	
感想・評判		弊財団としては、この5年間で実施した公演事業のいずれも高い評価を受けることができ、非常に成果のあがった事業であったと考えている。上述の通り『蝶々夫人』は東京公演がワールドプレミアとなり、その後欧州、北米と公演が続く一大プロジェクトであるが、こういった取り組みは弊財団として初であり、今後もこの種の取り組みを続けていければと強く願っている。『蝶々夫人』については、東京での評判はもちろん、ドレスデンでも好意的な声が多数あった。日本初のプロダクションにスター歌手クリスティーネ・オボライズが主演したことによっても話題性が高く、このように多くの注目を集めたことは名門歌劇場との共同制作ゆえに実現したものであり、こういった点でも共同制作の意義を感じることができた。同時に、この公演は「オペラ演出家宮本亞門」をヨーロッパでも更に強く印象づけることにもつながり、日本の誇る才能を世界へ紹介できたというのは弊財団における当事業の非常な成果であったと自負するものである。 また、オペラヨーロッパはオペラベースといった国際的な取組も重要であり、共同制作はもちろん、現場レベルでの情報交換が非常に有意義であることから、継続して活動していきたい。欧米主要歌劇場が次々と新たなオペラへの取り組みを続ける中、日本をオペラの消費地ではなく発信地であると位置づけるためのコンテンツはプロダクション以外に、今後も幅広いパートナー、ジャンルを超えたアーティストの起用などを通し、多彩なラインナップで聴衆にオペラ鑑賞の機会を提供し続けることが弊財団の使命のひとつとして努めていきたいと願っており、当事業のような新たな取り組みを後押ししてもらおうことのできる補助金、助成金を強く期待する。	

2018年度～2022年度戦略的芸術文化創造推進事業

東京二期会の3つの柱

- 1.人材の輸出
- 2.国際化に向けてのプロジェクトの充実
- 3.新たな資金調達＝協賛企業の確保

<公演事業での「人材の輸出」>

2019年度公演事業

ゼンパーオーバー・ドレスデン、デンマーク王立歌劇場、サンフランシスコ歌劇場との共同制作

プッチーニ作曲 オペラ『蝶々夫人』

日本公演：2019年10月(ワールドプレミエ)



©三枝近志

○2022年4月*ドレスデン公演(ヨーロッパプレミエ)への派遣：宮本亜門(演出)、島田彌六(演出助手)、柏木銀次(所作指導)

→3名はドイツデビュー。衣裳コーディネーター：武田園子はオンライン参加及び日本での作業。

*当初2020年にプレミエが予定されていたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う劇場閉鎖により延期。

同5月公演には蝶々夫人役として、ワールドプレミエキャストである森谷真理が同劇場デビュー。

○2023年6月サンフランシスコ公演(北米プレミエ)への派遣予定：

宮本亜門(演出)、島田彌六(演出助手) オンライン参加：柏木銀次(所作指導)

2022年度公演事業

フランス国立ラン歌劇場との共同制作

ワーグナー作曲 オペラ『パルジファル』

日本公演：2022年7月

○2020年1月フランス公演への派遣：宮本亜門(演出)*、三浦安浩(演出助手)

*同劇場には、東京二期会との共同制作『金閣寺』が評価され、2度目の招聘



©西村廣起

<共同制作プロダクションの充実>

○2019年度公演事業『蝶々夫人』

日本発プロダクションによるブランドの構築・国際発信力強化

当初はゼンパーオーバー・ドレスデンとの共同制作。

衣裳デザイナーとして高田賢三氏が参加したことで共同制作の輪が拡大。計4劇場での大規模共同制作となる。

海外メディアからの取材など、注目度も高く、プロダクションの今後のレンタルについて調整中。

○2021年度公演事業『ファルスタッフ』

売れっ子演出家ロラン・ペリー氏演出のプロダクションで、テアトロ・レアル、モネ劇場、フランス国立ボルドー歌劇場との共同制作。

プロダクションの今後のレンタルについて調整中。

○2022年度公演事業『パルジファル』

フランスでのワールドプレミアが各所で好評に。

<協賛企業数の増加>

2018年度公演事業協賛企業：4社(うち年間協賛企業2社)

2019年度公演事業協賛企業：5社(うち年間協賛企業3社)

2020年度公演事業協賛企業(新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2021年度に実施)：4社(うち年間協賛企業3社)

2021年度公演事業協賛企業：5社(うち年間協賛企業3社)

2022年度公演事業協賛企業：9社(うち年間協賛企業4社)